

ゲノム医療の地域社会実装に資するゲノム科学教育のための教材開発



【事業の概要】

本事業では、ゲノム科学教育のための実習教材の開発を島津理化社とともにやり、出前授業や市民公開講座、遺伝子診療部受診患者への説明等に活用することで、ゲノム医療の地域社会への普及に貢献する。R5年度から支援を受ける本事業では、2つの試作品の製作と附属中学校および本学教養教育科目等での授業実践における試用へと至り、参加した学生の評価が非常に高かった。本年度は試作品の製品化に向けて附属中学校以外にも授業実践の場を広げるとともに、理科教育学会等での発表・展示を通して製品の広報と自走化を図る。

【事業実施メンバー】

- ・大日方英 (医学系研究科)
- ・佐藤綾 (共同教育学部)
- ・(株) 島津理化

【意義・効果】

「ゲノム医療推進法」が2023年6月に成立し、ゲノム医療の社会実装に向けた動きが加速している。群馬県でも、群馬県・県医師会・群馬大学・県内2病院が参加する「群馬県ゲノム医療対策会議」が昨年7月に設立され、ゲノム医療を推進している。現在、分かりやすいゲノム科学教材は不足しており、医療従事者もゲノム医療に関する教育を受けてこなかった場合が多い。本事業は、学生のゲノム科学への興味を喚起する実習教材を開発することで、ゲノム医療の地域普及に大きく貢献するものである。

ゲノム医療の地域社会への普及

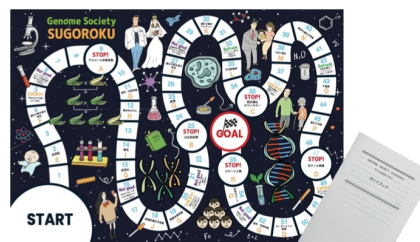
ゲノム情報活用による長寿健康社会



ゲノム医療啓発活動



「ゲノム医療・遺伝子検査の現状と課題を俯瞰できる教材の開発」



ゲノムすごろくの試作品



「ゲノムのサイズを体感できる実習教材」を用いた附属中学校での授業実践の様子